

## メッセージアウトライン

### ガラテヤ 3：1~5「愚かなガラテヤ人」

パウロはガラテヤの諸教会のクリスチャンたちに、「ああ愚かなガラテヤ人」(1)と嘆く。これは決して彼らのことを軽蔑したり馬鹿にしているのではない。パウロは福音に対する熱心さのゆえに彼らの福音の真理に対する無理解ぶりを叱っている。パウロが彼らの目の前にはっきりと宣べ伝えてきたことは「十字架につけられたイエス・キリスト」のことであった。ところが今、彼らはキリストの十字架がはっきり見えなくなっていた。

「ただこれだけをあなたがたから聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行なったからですか。それとも信仰を持って聞いたからですか」(2)ここでの「御霊を受けた」とは彼らが信仰に入ったときの経験のことである。だれでもイエス・キリストを救い主と信じ告白したときに御霊をいただく。使徒2:38 このようなところから解きほぐしていかなければならないほどに、彼らの信仰と救いについての考え方は混乱してしまっていた。

パウロは彼らに、「御霊で始まったあなたがたが、いま肉によって完成されるというのですか」(3)と問いつめる。肉 生まれつきの人間の力、努力

キリストにあって救われ、新しいいのちをいただいている状態から、古い死ぬべき肉の状態にかえて生きようとするとはパウロにとって考えられないことであった。

「あなたがたがあれほどのことを経験したのは、むだだったのでしょうか。万が一にもそんなことはないでしょうが」(4)

「あれほどのこと」とは、次の二つのことが考えられる。信仰に入ったときに受けた迫害の経験、救われたときに経験したすばらしい体験。喜び、平安、空しさからの解放、罪を赦され死からいのちへ移されたことの感激……。文脈から考えるならば、のほろが自然と思われる。私たちが信仰に入った時、そのような経験をしたのではなかったか。

そしてパウロは最後に次のような質問をする。「とすれば、あなたがたに御霊を与え、あなたがたの間で奇蹟を行われた方は、あなたがたが律法を行なったから、そうなのですか。それともあなたがたが信仰を持って聞いたからですか」(5)ここで言う「奇蹟」とは4節で言われた「あれほどのこと」を指していると考えられる。すなわち救われたときの経験である。人間の救いというのは人間の側のいかなる努力にもよらずに、神の側が起こして下さる奇蹟のみわざなのである。そこでこの救いは、あなたがたがさまざまな戒めよりなる律法を守り行なったから与えられたのですか、それとも信仰を持って聞いたからですかとパウロはガラテヤ人に問うのである。答えは明白である。律法を完全に守り行なって神から義と認められ、救われる者など誰もいない。私たちは罪ある存在であり、神のみこころを行なうことができなくなっている道徳的破産者なのである。そのために神は御子イエス・キリストをこの世に送り、御子を十字架にかけられ、私たちの罪を贖うという道を用意して下さり、私たちがその福音を聞いて信じたときに救われるようにしてくださったのである。私たちが神の恵みを無にして、さまざまな努力や善行によって救われると考える愚かな者となってはいけない。